天明六・七年長州藩諸所百姓騒動史料

北川　健

天明期（一七八一―八〇）は、全国的に百姓一揆が集中的に展開した時代である。青木虹二氏の業績[1]によると、この期、一揆発生件数は一大ピーク（左表参照）をなす。しかも、林基氏の指摘[2]によれば、量的にだけではなく階級闘争としての質的な発展を伴ってのことであり、そのようなことから、天明期は「封建制の本格的危機への突入段階[3]」、あるいは幕末の「革命情勢の原型の成立[4]」の画期ともとらえられ、幕藩体制解体の起点をなす時期として着目されている。

ところが長州藩の場合、天明期と云えば、ほとんどこれまでの研究面からはドロップしてきているというのが実状であり、この期の一揆についても、三件ほどが昭和一〇年代初めの三輪為一[4]、黒正巌氏[5]による一揆年表に示されているにとどまっている。

しかし、一揆の実数はこれにとどまるものではない。ことに天明六―七年、「此節他所他郡こ茂色こケ様之取沙汰風聞茂有之」（史料1）とか、「世上米商売仕候者打破」（史料番外）、あるいは「小郡秋穂辺之騒動」（史料6）など、一揆は今日知りうる以上に展開していたと見られる。小稿は、長州藩に関する従来の一揆年表の天明期の部分について一定の補足を

全国百姓一揆件数

年間	平均年件数
徳保	4.6
文保	8.8
享延	8.4
延暦	10.0
暦和	9.0
永明	21.3
明政	10.8
政和	12.7
和化	7.3
政保	26.0
化永	11.9
永寛	11.3
寛宝	14.0
宝明	12.6
明安	25.6
安天	11.5
天寛	13.0
寛享	
享文	
文天	
天弘	
弘嘉	

青木氏研究書（註1）から作成

呈するものである。（七〇・七一頁年表参照）

史料は、毛利家文庫「遠用物」の袋物史料。袋表題には寛政年中の書入れで「諸所百姓騒動申出」とある。直横目の聞合書、代官の伺書など三〇余点。ただし、紙幅の都合で史料の全部は掲載しかねた。

註　①　青木虹二『百姓一揆の年次的研究』

②　林基「宝暦―天明期の社会情勢」（岩波講座『日本歴史』近世4）

③　山田忠雄「幕藩制解体の起点―階級闘争・政治過程」（『講座日本史』四）

④　三輪為一「防長百揆一揆概観」（『防長文化』研究年報第一輯・昭和一二）

⑤　黒正巌「広島・山口両県下の百姓一揆」（『経済史研究』二〇―三・昭和一三）

⑥　村田清風「貯穀の源由」。周布公平所蔵、両公伝編纂所筆写史料。

一　熊毛宰判三輪村百姓騒動

史料1

一筆致啓達候宰判熊毛三輪村井原織江方知行所御預地庄屋林兵右衛門存内百生五六拾人計ゟ催シ過ル十四日三輪市酒屋ゟ相集庄屋手前不審有之ニ付右人数一同織江家来栗原文蔵福永久兵衛宅ゟ罷越願書付差出候処於願筋萩屋敷ゟ申出捌方可有之先身柄ゝゝ引取候様こと右家来両人ゟ申聞せ早速惣人数宿本罷帰相静候由相聞ゟ申候□（虫喰）願出之趣ゝ地下小貫割戻し之儀と申事候得ゝ当時御預地之儀ニ付給主之手前こて捌方可相成哉品こ寄り御代官所ゟ其全儀ゟ不仕候ゝ難相済儀も可有御座哉候へ共寔こ風聞而已之儀こ付如何様之趣哉ゟ難計御座候乍所是非はともあれ多人数相催候処不可然儀こ付早速打廻り手子両人彼地差越いつれ□（虫喰）発頭人とも有之趣こ候ゝゝ召捕候上糺明可仕心得こ御座候此節他所他郡こゟ色ゝケ様之取沙汰風聞ゟ有之徒党願之儀ゝ甚不宜作廻発頭人相知候ゝゝ脇ゝ為示之こゟ候故少ゝ手重ク御咎被仰付度存候折節拙者儀大嶋郡出張先達ゟ御届申上候通例格を以春分厳嶋祭事之節身柄参詣仕来候付彼地罷越候砌故悪喜右衛門ゟ御内届こゟ仕候由拙者方申越候併於只今ゝ百姓中相静り居強ゟ諷ゝ敷筋とも不相聞候得共此節之儀若脇村見真似とも仕候儀共有之候ゟゝ不可然儀候故折角無油断其吟味可仕心得こ御座候是等之次第御代官所こおゐて早速取上表方致沙汰候段も却ゟいかゝ敷拙者儀大島郡差懸り否究宗門究等仕懸候間是元相滞り先は打廻之者を以聞繕申付候儀こ御座候条左様御承知被置此段内匠殿被仰上可被下候為右如是御座候　恐惶謹言

三月十八日　　村田四郎左衛門（書判）

猶以先達ゟ喜右衛門ゟ御内届之趣こ付候ゟゝ手ノ下難閣早速其全儀こも取懸り可申様御聞請可有之哉と存候得とも於拙者ゝ先本文之通寔こ讃談仕心得御座候然共於其御方御抑儀之上こゟ難被閣御様子こゟ御座候ゝゝ御急答被仰授可被下候旁何遍可然奉頼候已上

矢嶋作右衛門様
入江七郎左衛門様
松田藤左衛門様

史料2

熊毛三輪村井原織江知行所御預り地庄屋兵右衛門存内先庄屋当時畔頭　吉左衛門
同人世忰　幸助
宿元立出未戻り不申　伊右衛門
願書調手　清助

右いつれも宿元罷出候処此節追ゝ立帰り候様相聞申候宍美（穴戸）濃殿家来　佐波忠左衛門

右は先庄屋吉左衛門子之由
井原織江家来　品川文七

年	月日	百姓騒動内容
天明6	10／24	徳地宰判三谷村の百姓甚蔵、受紙抻替えに対し、庄屋の不正を唱えて切符の交付を拒む。勘場役人が事情聞取りに出向いたところ、近辺の百姓残らず詰めかける。庄屋罷免されて出奔。（史料4）
〃	12／23	奥阿武宰判下小川村の百姓八〇―九〇人、庄屋元へ押しかけ、庄屋の交替を要求。（史料8）
天明7	2／?	山代宰判鹿野村の百姓騒動。（三輪・黒正年表）
〃	2／6	徳地宰判柚木村川上中村の百姓多人数、道口まで罷出づ。生活窮乏のため出村と云う。さらに刀祢の百姓多人数が加わる。同夜は河内八幡社にて明かし、翌七日には小野村の百姓も加わって一八〇人余。柚木本郷にて勘場役人らが立会う。百姓側は困窮に対しての仕組立てを要求。老幼者への救米が支給されることで八日朝帰村。（史料5）
〃	2／16	吉田宰判厚保本郷の百姓一〇九人、苧楮間欠銀の取捌きにつき勘場へ出訴。夜は町宿に泊込むも庄屋の説得により引揚ぐ。（史料7）
〃	2／23	奥阿武宰判生雲村宍戸美濃知行所天子の百姓二〇人ばかり罷出づ。一里ほどにて庄屋畔頭らが阻止。（史料8）
〃	3／(8・7)	吉田宰判厚保村の百姓、若宮八幡社に夜中多人数集まり、苧楮間欠銀につき出訴の申談。（史料7）
天明7	3／14	熊毛宰判三輪村井原織江知行所の百姓五〇―六〇人、三輪市の酒場に集まり、井原の家臣宅に赴き庄屋の不正を訴える。（史料1・2・3）
〃	3／23	山代宰判鹿野村・大潮村の百姓、御馳走米、山立銀の免降を求めて強訴。（三輪・黒正年表）
〃	5／27	徳地宰判馬神村の百姓五〇―六〇人が罷出づ。庄屋らの説得によって引揚ぐ。生活困窮のため御貸米、飢飯米を要求せんとしてのことと見られる。（史料6）
?	?	小郡秋穂辺にて百姓騒動。徳地馬神のそれとは事情を異にする。（史料6）
天明7	6／11・9	徳地宰判三谷村および柚木村の百姓騒動の主要者七人の逮捕が、田植えの終了をまって、この日未明行なわれる。（史料番外）
〃	6／9	山口宰判篠目村にて米商を手がける百姓三左衛門宅へ、夜間一〇人ばかりのものが襲い、家財を破却し銭を奪う。米商打ちこわしに見せかけての盗賊とも見られる。（史料番外）
天明8	?	三田尻宰判三田尻浜の浜子ら、休浜法に反対して騒擾。（三輪・黒正年表）
天明?	?	飢饉のおり、萩唐樋の竹内という米屋、打ちこわしに会う。（註6）

右此者儀ゟ手伝仕候由こて井原殿ゟ〆り相成居候様相聞申候

右三輪村御預り地井原織江殿知行所百姓多人数相催し庄屋兵右衛門貫事引負有之由こて御彼方家来ゟ書付を以讃談之儀願出騒動仕候趣内〻聞繕仕候処其節発頭之者御詮儀可有之と相考宿元一応立出候処其後追〻立帰り尤伊右御門と申者未帰り不申候へ共此者儀ゟ遠方ゟゝ逃去り不申いつれ之道罷帰可申趣こ御座候御代官是迄沙汰筋之趣をも内聞仕見候処此内頭立之者逃去り候付先ツ静メ置近日彼村宗門究相済せ候ゝゝ右伊右衛門と申者も立帰り可申左候上ゝ早速相捕御咎之御伺仕候心得と相聞候其上こて吉左衛門儀ゟ沙汰筋不宜儀有之候ゝゝ是又相応こ御咎之儀御差図被請可申所存と相聞候右庄屋兵右衛門儀も去年〆相勤未本役間合無之由相聞候然共小貫事下ゟ之沙汰不宜様相聞候委細ゝ罷帰候上可申上候其内被仰上置可被下候已上

四月十四日　吉左衛門

七郎左衛門様

史料3

覚

三輪村畔頭
吉左衛門

右之者兼ゐ持方不宜地下こゐ毎度公事ガま敷此中給領之節小庄屋相勤居候処去年井原織江方御扶持方成被仰出御預地こ相成候こ付庄屋致退役畔頭こ罷成庄屋之儀ゝ是迄之小都合庄屋ゟ申付候故物毎心外之下意有之候哉こ付何とそ庄屋ゟ難題を仕懸ケ差替候時は後役可相勤根心有之候故此度百姓中騒立候様仕懸たる儀歟と相聞ゟ諸事其仕向こ相見ゟ候得共御究之上其段白状をゝ不仕別紙口書之通御座候乍此上厳敷相究拷問こゐも致候ゝゝ白状を兼可仕哉こ候へ共不及夫迄別紙過失書之趣を以御全儀之上籠舎遠島之旨被仰付急こ在所不立帰候様御咎相成候ゐゝいかゝ可有御座候哉

同村百姓
幸助

右之者事未年若こゐ元気之人柄故此度百姓中願之筋一番こ罷出遮ゐ致世話先ゝ頭取願之儀こ付別紙口書並過失書之趣を以籠舎之致沙汰候併此者儀は当分懲こ被仰付少〻日数相立候上家戻り仕候ゝゝ心底ゟ相改御百姓筋こおいては働ゟ能相聞其上極老父ゟ有之由候得ゝ旁御慈悲を以一応之御咎相立候ゝゝ御宥免被仰付候ゐゝいかゝ可有御座哉

同村同
伊右衛門

右之者事年令六拾四五とも相見ゟ至ゐ耳ゟ聞ゟ兼太躰正直成気質と相聞候処此度之儀ゝ畢境幸介へ被誘最初〆何歟と申合候故先は頭取之聞込有之召捕相究見候処於仕方こゝ難遁御座候得共究之儀ゟ至極高声こ申聞せ候ゐも通兼候程之儀差ゐ頭取と申筋こゟ難片付先ゝ五人組ゟ預ケ〆り申付置候此者儀ゝ改ゐ張紙閉戸共被仰付御了簡相成候ゐゝいかゝ可有御座哉

同村同
清助

右之者事至ゐ小身今日ゟ暮兼候程之由相聞候処兼ゐいじり書をも仕候故幸介猪右衛門案書持参候ゐ此度之願書調せ候様相聞於身柄ゝ一応辞退仕畔頭をも承合せ候処調候ゐも不答と申こ付無拠書認候而已之儀こゐ一向発端共仕候訳無御座別紙口書之通こ付先ゝ五人組へ預ケ〆り申付置候此者儀ゝ改ゐ閉戸追込之旨被仰付御了簡相成候ゐゝかゝ可有御座哉

同村庄屋
林兵右衛門

右之者事地下貫私欲之筋ゝ一向無御座相聞候得共地下折相不宜故此度之儀も立騒之様こ相聞候こ付先は追込申付置庄屋之儀ゝ脇村庄屋ゟ兼帯仕せ置候彼者之儀ゝ直様相勤せ候ゐゟ地下之請心不宜儀候間役儀をゝ取上被仰付身柄無御構被差免候ゐゝいかゝ可有御座哉

三輪村騒立候
百姓中

右此度直訴一件こ付地下造佐入給主方こゟ家来之往来旁地下役有之様相聞候右一件之諸入用此者共〆差出せ候様過料出之致沙汰候事

右才判熊毛井原織江方知行所御預地百姓中直訴致徒党立騒候こ付此中以其詮儀可仕心得こ御座候処肝要頭取と相聞候者共立隠候由故暫致猶予見合候内過ル十四日迄こい

つれも立帰候様承り十五日夜中手子之者差越前書之者共召捕相究候処いつれ茂別紙口書之通こ付夫ミ過失書を以先当分難閣分をハ於山口籠舎其外〆り之致沙汰置候是等之儀ハ脇ミ御見渡御裁許筋も可有御座儀こ付於御代官所難及落着此度前段之通御窺申出候間御詮儀之上被仰付御沙汰可被下候已上

四月十八日　　村田四郎右衛門

二　徳地宰判三谷村・柚木村・馬神村百姓騒動

史料4

覚

一此度諸郡一統之御沙汰を以田畠付之受紙有之才判之儀は抑替被仰付一件相済候付百生中ハ銘ミ受紙辻切符渡之節三谷村庄屋桑原甚左衛門存内畔頭七左衛門与百生甚蔵其外申談紙抑こ事寄せ庄屋不埒就有之こ百生中ゟ願之趣こ付御代官所沙汰筋御咄仕置候分左こ書記懸御目候事

一過ル十五日三谷村庄屋桑原甚左衛門存内切符渡之節畔頭七左衛門与人別不相揃こ付多人数呼出仕候夜中こ相成隣村ハ参候付夫ミ切符相渡候節甚蔵金蔵与一左衛門と申者共不罷出こ付組相之者ハ切符取帰相渡候様こ申聞せ候所若受取不申候ハヽ如何可仕哉と大庄屋へ申候由自然請取不申候ハヽ其節御庄屋元迄申出候様こと申聞せ取帰せ候事

一廿日比承候へは三谷村甚蔵金蔵与相之者取帰候切符受取不申不折相之段相聞夫こ付あハ近辺之者共申談候様こ相聞候付諸村相済彼者共計受取不申段抑付不同有之儀共候哉立会之十人頭証人百姓中ハ得と申聞せ折合せ候様こ申付候所頭百姓中ゟ事を分ケ申聞候へ共承引不仕尤金蔵事ハ切符受取甚蔵与一左衛門受取不申段申出候与一左衛門と申は甚蔵不遁者こあ其下札甚蔵取捌仕候由

但紙抑之節立会之頭百生拾四人ゟ紙抑無甲乙相調候段別紙書付こ印形之〆りを以申出候事

一同廿三日三谷村之手子呼出三谷村甚蔵不折合之段頭百生中ゟ申出候条受村之儀こ付彼地罷越様子相尋趣次第甚蔵勘場ハ連帰候様こ申付趣も有之候ハヽ申談候様こと脇村手子孫兵衛をも相添彼地差出候事

一同廿四日夜前三谷迄手子文平孫兵衛罷越今朝文平壱人甚蔵宅へ参り申承候内近辺之者共甚蔵方へ罷越追ミこは地下中不残相集候様こ相見惣中ゟ願之筋御座候通手子之者申こ付いかやう之儀こ候哉可承届由申候へは御壱人こあハ御聞落シ茂可有御座願ハ御役人様壱両人御立会御一同こ御聞届被遣候様願申候通返あ相願候段文平ゟ申越候付見取方役人神田権左衛門小幡庄蔵勘場ゟ古川九右衛門相添彼地差越申候左候あ大庄屋其外勘場者呼出三谷之儀此内不承候哉前廉こ相知候ハヽ沙汰心茂可有之如何存候哉と相尋候所此内少ミ承候儀も御座候へ共立銀山之節茂何歟と申候由終こは折合申候此度之儀茂右同様こ落着可仕と奉存不申上由申候事

一同廿五日朝七ツ時分役人其外手子何茂一同こ罷帰趣承候所三谷村之者共申候は此度紙抑地下頭百生中ゟ無甲乙抑付相成候所於庄屋元不録こ調替候様こ申立猶又十三ケ年已来御紙足シ米算用相滞櫨代等茂人こ寄受取不申数代御庄屋故歟威厳強算用之儀申候あもかまひ不申只様不埒こ相成地下迷惑之筋多御座候只今之通こあは御百姓難取続候間御庄屋畦頭御役被差替被下候様こ尤此内相滞り候算用等相除せ候様こ御願申上候段申候付何茂聞届候間一先引取候様こと申聞せ候へは引取候様相見候所甚蔵いかヽ相心得候哉わつと申候あ我ハ皆ミ帰候跡こあ勘場ハ被召捕申と声を立申候其節地下人共甚蔵へ申候は気遣ひ仕間敷と申数十人声を立申候其内ゟ甚蔵身柄被召捕候ハヽ私共儀も一同こ被召捕候様こと申候付左様之儀こあ無之一先宿ミハ罷帰御沙汰筋を相待候様こと役人ゟ重畳申聞候へ共一向承知不仕躰こ相見候付何も勘場引取可申と申候へ共御役人様御主人ハ御勘場ゟ御返答御座候迄御居留被遣候様こと申迄こある格別茂無之役人衆其外勘場引取申候事

一三谷不折相多人数相集候段先達あ手子孫兵衛罷帰地下中相集り愁訴之儀有之様こ相聞候段届候付深谷村庄屋林七左衛門引谷村庄屋原田九郎兵衛年令巧者之者こ付用事茂可有之と存呼出置候役人衆申合見候所何分庄屋

桑原甚左衛門沙汰筋不行届通追こ相聞候付先身柄追込置深谷庄屋林七左衛門ゟ替役申付三谷百生中取静候様こ申聞せ猶又原田九郎兵衛儀ハ七左衛門申合三谷折合之筋こ取捌候様こ申付候ゑ廿六日朝五ツ前三谷村差越候勘場ゟ田坂善右衛門相添申候事

一廿六日之晩林七左衛門原田九郎兵衛三谷一件取収勘場罷帰候段先達ゑ申越追付右両人之者罷帰候付趣相尋候所七左衛門三谷罷越九郎兵衛一同共聞せ候ハ当村御庄屋桑原甚左衛門不埒有之此度御百生中ゟ願之趣御役人様方ゟ委細こ御代官様御承知被成早速甚左衛門身柄先追込被仰付七左衛門事当村御庄屋替役トゞ被差出候通申聞せ御百姓中願之趣御聞届相成候上は何ゑ銘こ宅ゟ罷帰此上願之筋も有之候ハヽ頭百姓ゟ承り可申段申聞せ候所何ゑ得其意候七左衛門甚蔵ゟ申候ハ此度紙抑御切符其元受取不申由此度之御紙抑之儀ハ御百生中ゟ受状被仰付候節被仰聞候通上御利徳筋を以被仰付儀こ無之年来受紙片寄り小百姓至ゑ迷惑仕候付土地厚薄田畠多少之御詮儀を以下御猷ひ之道理こゑ抑替被仰付諸村ゟ御帳面差出候辻を以人別ゟ御切符御渡方相成候儀弥受取不申哉之段相尋候所甚蔵申候ハ地下ゟハ不禄無之様仕出仕候所於庄屋元差操仕候様こ相聞候間序こ御抑替被仰付候様こ申候付受紙抑替之儀ハ諸村共こ頭百生立会之上坪こ相究詮儀之上田畠相応こ割付其辻を以御沙汰相成儀若こ脇村こゑ何歟と申者有之時ハ当村発頭人こ相成可申此段落着こゑ候哉と申聞せ候へは事を分ケ被仰聞候儀私事も七十ケ年已前御勘場へ出勤をも仕候付旦こ御沙汰筋之儀も覚居候御代官様御印判〆りを以切符渡被仰付候儀否申上候当村御百生中願之趣早速被聞召届桑屋甚左衛門迷惑被仰付其元様被差出候付只今御切符受取申候御庄屋不心得を以不録御座候ハヽ至後年御抑替可被仰付候猶又私方ゟ地下人壱両人宛相集り自然と多人数罷越候儀ハ銘こ之儀こゑ全申合候儀こ無御座此段得と被仰上可被下候此上御百生中ゟ否申者御座候ハヽ私儀九拾四歳こ罷成候いか躰之御咎こも可被仰付と挨拶仕惣御百生中ゟも御勘場へ御礼申上候様と申候へは居相之者共甚左衛門被差替恭由及挨拶候右こ付御米紙取立之時節家職情を出し候様こ申聞候へは御米紙之儀ハ御物切無相違御上納皆こ御請仕候と一同こ申候ゑ引去仕三谷一件相静り庄屋林七右衛門原田九郎兵衛罷帰候事

一廿六日桑屋甚左衛門所ゟ大庄屋迄手紙こゑ申越候ハ甚左衛門御受用状参候所甚左衛門事夜前九ツ時御勘場罷出候由こて隙取候ハヽ臥野之伴介方こ泊り可申と申罷出候付早速伴介方ゟ人遣候所参り不申其外急こ参り先へ人遣候所一向行付不相知候いかヽ可仕哉之段申越候書状大庄屋ゟ差出候付三谷一件之儀も有之御米蔵〆り庄屋元御用物其外勘場取引等も有之事こ付早速役人衆手子隣村庄屋相添差越甚左衛門留守〆り仕せ御用物之儀ハ林七左衛門へ引渡候様こ申付火用心等之儀船路村庄屋上野嘉左衛門八坂村庄屋有井弥一左衛門何ゑ近親類こ付諸事〆り仕不逞者申合甚左衛門行付相尋申出候様こ申付猶又尋合之儀才判居相之役人衆ゟ気を付候様致沙汰置候事

三谷村立会人数

御紙見取方
神田権左衛門
小幡庄蔵
庄や
古川九右衛門
同
林七左衛門
同
原田九郎兵衛
上村先庄や
田坂善右衛門

田畠高千三百四拾六石八斗八升四合
請紙六百七拾弐丸

三谷村
三谷庄屋
桑原甚左衛門

右之通御承知被置可被下候已上

午閏十月晦日

山根平左衛門

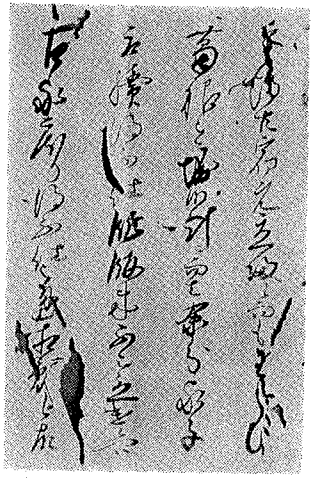
史料5

覚

徳地宰判柚木村之内川上中村畔頭助右衛門与百生多人数二月六日昼八ツ半時分程途中罷出候付庄や畔頭罷越何事こゑ大勢罷出候哉何分宿元立帰候様申聞せ候処去秋不作仕こ付当分より給物無之及飢猶又御米方不納も

有之当春御紙御上納之手段も無之在所居住も不相成こ付為渡世他出仕候と申候由左候ハヽ其段御勘場申出何分之御沙汰可被仰付候間当分渡世不相成候ハヽ先米弐三升宛遣し可申こ付早ミ宿元立帰候様こ庄屋畔頭段ミ申聞せ候得は及落着罷出候人数之内拾弐人米三升宛受取凡道法弐三丁程ゟ立帰候処こ刀祢畔頭賀屋善右衛門与之者又ミ多人数出添候ゟ先達ゟ米受取帰候者共を呼返し候ゟ不得止事騒立候こ付御勘場申出御役人様御出張を相待候様こと庄屋畔頭ゟ申聞せ候得は同晩河内と申所八幡之社集り夜を明し候事

一勘場ゟ道法六里程ゟ隔り候在所こ付往返乞合之中同七日昼時分程小野村と申所ゟ廻り候ゟ小野村之百姓を進メ候歟又ミ小野村之者致同道出添都合百八拾人余柚木本郷ゟ立出百姓家こ集り居候処ゟ役人衆手子庄屋追ミ罷越柚木庄屋畔頭申合せ種ミ申宥候処最初ゟ申方之通之由こゟ申募候付願筋ハ如何と相尋候ハヽ最初庄屋畔頭ゟ申候通去秋不熟こ付御米方御皆済不相成給物も無之こ付当春御紙御上納等こ差閊其上当分ゟ及飢候段申何分右之御仕組等被仰付被遣候様こと相願候趣こ付役人衆ゟ申聞せ候ハヽ御米方御紙方共こ地下よりも身分相応之仕組を付申出候ハヽ於御代官所も何分仕□（虫喰）之詮儀可相成候間銘ミ宿元立帰候様申聞せ候ハヽ納得仕候得共宿元立帰候ゟもわらひ（び）葛根を堀候計こゟは余分家子取続得不仕飢飯米不被立遣候ハヽ古家戻り得不仕之通相願候故六拾才以上之者又拾五才以下之者ゟは壱人日別壱合之見渡を以二月八日ゟ日数十日ト〻米壱升宛遣し可申男女共こ健成者ハわらひかつ根等堀候ゟ何分取続候様追ゟ上ゟ御救之筋も可有之通申聞せ候得は致納



〝村に帰っても蕨や葛の根を掘るだけでは家族が生きていけない，飢飯米が支給されなければ家には戻らない〟，と百姓側は抗弁。

得漸八日暁銘ミ居宅立帰候事

一六日晩ゟ七日朝迄河内村八幡社こゟ粥を焚給せ候七日昼飯を相□（虫喰）候付粥を焚給せ可申と申候ハヽ粥ハ給不申由申こ付飯を焚給せ夕飯ゟ飯を焚給せ候事

一本郷こ酒屋有之小野村通り出懸ケ之時分立寄酒買得可仕と申騒候こ付呑せ候一躰酒之儀ハ六日之夜中河内八幡之社こゟ酒を呑せ候様こと申之由候へ共近辺こ酒屋無之こ付呑せ不申由候得共翌日は酒屋ゟ参り右之通申こ付無拠呑せ候事

以上

柚木村立会之人数

御紙見取方役　増野平之進
御口屋手子　徳田　惣七
御紙見取方手子　権右衛門
先大庄や　重岡久左衛門
庄屋　田坂善右衛門
同　松村久右衛門
同　上野嘉左衛門

右之通御承知被置可被下候

以上

未二月　乃美五郎吉

史料6

一筆致啓達候徳地宰判馬神村御百姓去月廿七日比五六拾人程も相催罷出候由寔及貪究候ゟ差閊居候通之儀と風聞相聞申候早速御庄屋其外立会色ミ申宥銘ミ古家立帰候様申聞せ納得仕たる様子と申事こ御座候於于今ハ随分静謐仕居候様相聞申候是ハ小郡秋穂辺之騒動共違当日難凌手之下差閊申候間御貸米又は飢飯米等御断こゟも可申上下意こて徳地柚木村之分へ似寄候事歟と相見申候由先ハ私被仰付之御用筋聞繕可仕と奉存候尚格別之儀も無御座候ハヽ帰萩可仕彼是日数延引仕候様こ

相見気毒奉存候旁之趣宜被仰上置可被下候
右為御届如此御座候　恐惶謹言
六月七日　利平次（書判）
尚申明早朝三田尻へ罷越申覚悟こ御座候以上
直横目中様

三　吉田宰判厚保村百姓騒動

史料7

覚

一吉田御才判河原村御庄屋佐々木市右衛門存内之儀ハ苧楮所こて前廉御見取之節ゟ年〻四百拾壱把宛御買上ケ相成来候処明和五六年比右之内弐百把をハ隣村ハ買下之願仕被差免年〻御勘場ゟ之割符辻を以村〻ハ納来候内六拾六把宛厚保本郷御庄屋来嶋孫四郎存内ハ請来候処現苧楮こては上中下之差別を申立双方毎事口論致出来候故十ケ年程已前ゟ代銀請之申談仕間欠銀之儀は市右衛門存内ゟ差出候筈こて一両年は下直之時節故余分之間欠も無之取引相済申候処年増高直こ相成八ケ年跡子ノ年分間欠銀市右衛門方ゟ〆立仕相渡可申と乞合候ゑも脇こ之間欠と余分之違故御銭受候百姓中不折相こて於孫四郎こ義請方不相成夫已来年〻多少を申立懸り合こ相成取引不埒こて御勘場ハ追〻申出過ル巳ノ夏脇村之間欠銀子ノ年以来之分付出之上此見渡を以子ノ年ゟ寅ノ年迄三ケ年分苧楮壱把こ付八十文銭三匁四分五厘宛卯ノ年四匁壱分弐厘辰之年七匁五分宛こ〆取引相済せ候様こと宇津井御庄屋伯野助大夫埴生同助十郎被差出双方取扱候へ共市右衛門申方子丑壱匁宛寅卯壱匁七分宛辰七匁五分宛にして〆立置候付此分之外今更増〆仕候ゑは困究之地下向至ゑ差問候由こて折相不申候之由御百生中を厭ひ候て之儀とハ乍申不直之取扱こても無之儀と相聞候付折相之道付も可有御座儀と相見申候夫已来孫四郎ゟ追〻御勘場ハ申出をも仕候へ共所詮御詮儀不埒こて只今迄御道付不相成由御座候且又去〻巳ノ年は山代御才判苧楮不熟こて吉田御才判御紙被差止苧楮不残彼御才判ハ御買上ケ被仰付去午ノ年之儀ハ前段懸り合有之儀こ付孫四郎存内ハ之割符被差除候由御座候事

一先月十六日朝六ツ時過孫四郎存内御紙請御百姓中百九人一同こ御勘場ハ罷出飛脚番を以大庄屋ハ直対仕相願度儀有之候段申入候付多人数罷出候段如何様之儀こて候哉孰と心得之者一両人相対可仕段申聞せ候処岩ケ河内畔頭利左衛門組忠左衛門又右衛門熊ノ鞍畔頭与二右衛門組新右衛門其外弐三人義参り残りは御勘場門内こ控居候由大庄屋旦原作左衛門打廻り手子田中五平次立会候処右之内こても忠左衛門新右衛門申候は八ケ年跡子ノ年ゟ辰ノ年迄五ケ年之間河原村ゟ渡苧楮間欠銀不埒こて追〻御庄屋畔頭ハ相歎候へ共所詮渡方不相成いつれこ相滞居候哉近年凶年こて別ゑ取渡難相成致難儀候付急こ埒明候様尤年数相重り之儀御算用前渡方不相成とも不依多少現銭御渡方相成候様こと相歎余り不埒こ付兼ゑ内叱仕合いつれ発頭と申儀は無之勿論地下御役座ハ相届候筋こても無御座道すがら追々出会仕一同こ罷出候由申事こ付於願筋こは尤之儀近日御代官様其外御越之上早速御詮儀を乞可申孫四郎ゟ申出も相成去は一応相伺候へ共河原ゟ之歎懸りも有之旁一朝一夕こ片付可申儀とも不相見其上差懸りゟ御用多緩急之差別を以遂詮儀候様ことの儀こて只様延引相成候此上は早速遂詮儀可申道理有之儀こてもケ様徒党仕罷出候ゑハ還ゑ厳重之御咎を蒙り候間早〻在所引取候様御大法旁入わり申聞せ候処御尤之儀いつれも申聞せ可罷帰と申一応引取申候処又〻相対を乞いつれも申合候処是まて罷出及御相対候之上は迚之御心入こて御道付被差免被下候様夫迄は町宿ハ相滞居可申と種々申立引取不申候故早速孫四郎方ハ申遣候処七ツ半時過罷出出訴之者共罷居候宿ハ参り入割申聞せ候之儀ハ致納得夜中執義在所引取其後は御詮儀懸りと心得治り居候様相聞申候事一御百姓中御勘場罷出相願可申哉又は河原御庄屋元ハ押懸可申哉と折〳〵申談候儀ハ当正月末方已来之儀と相聞申候孫四郎存内之御受紙高六拾五丸弐拾束之内凡半方程は岩ケ河内畔頭利左衛門組内請居利左衛門儀も余分之御紙受居候儀旁岩ケ河内発端こて出訴仕候様相聞申候利左衛門儀罷出たる筋こては無御座候へ共内心こ

は同意も仕たる儀と風聞仕候且又孫四郎儀も兎角移りは有之たる儀候得共年来之懸り合所詮道付不相成地下人とも催促之度之返答こゝ差問御百姓中疑心ゝ有之様聞受候之故歟不埒之段不任心底勘場罷出可相願と思ひ候ハヽ勝手次第抔と申たる儀も御座候之様風聞ゝ有之候既こ十五日昼七ツ時過ゟ岩ケ河内之者共弐拾人余も原村八幡之社ゟ相集り夫ゟ脇村之者共ゝ追〻夜中相揃ひ申談一同こ御勘場罷出候由原村之儀は孫四郎居宅とハ半道余りゝ有之所隔りたる儀こハ御座候へ共存内之御百姓多人数集り候儀其移りゝ可有御座御勘場罷出候跡こてハ評判をも仕儀御勘場ゟ之呼出を不相待即刻罷出取静可申儀御座候へ共其儀も無御座尚又御百姓中申分之所尤と引受年来懸り合仕候儀且此度之出訴御庄屋も合点之前抔と地下人之中申者も有之候由御百姓中在所引取候ゟハ其示をも可仕筈御座候へ共其儀も無御座万事取捌筋不宜儀も相聞申候縮ル所は御代官所御詮儀筋年来不埒こて打過於御庄屋畔頭こゝ催促尽候故之儀ゟ騒働をも仕候様相成たる儀と相見申候事

一孫四郎事有徳之者こて兼ゟ之勤方各別之儀も無御座御庄屋内こても口聞と申程之部こて大庄屋其外共万事はり合其上証人庄屋をも相勤候程之人物と相聞申候事

一吉田御勘場元之儀ハ往環筋其上十六日之儀は立市日こて諸方ゟ商人共数多相集り旁世上諷〻敷風聞をも仕候之様相聞申候事

一間欠取引さへ相成候得ハ地下向折相申儀と相聞此内打廻り手子をも被差廻追ゟ御詮儀可相成候間謹ゟ御沙汰筋を相待候様内〻頭立候者共ゟ申聞せをも仕候処於子今こは随分相静り趣之儀も無御座候様相聞申候事

一此内間欠御詮儀も相成候へ共御代官様を初御役人方大庄屋迄も追〻交代こて当時之大庄屋も去秋已来之所勤こ付根行不存先役之者共追〻讃談ゝ相成候儀共手数隔り候儀容易難相分り其上市右衛門儀久之病気こて漸過ル廿四日之晩ゟ致快気罷出候儀旁こて以今片付不申候縮ル所之御治定市右衛方ゟ年〻〻立置候分ゟ利足を加へ取引相済せ候様ことの儀こ御座候由厚保御百姓中未落著仕候筋は不相聞候へ共出訴之節不依多少貫ひ請取と申候儀も御座候へハ決ゟ折相可申儀其上河原村之方今更増〻仕候ゟハ困窮之時節地下別ゟ差問候儀第一ハ是迄乍纔ゝ取引相済せ候村〻ゟ当り合こも相成候趣も有之候付右之通取引被仰付候趣相聞申候且又右取引一件相済候上は出訴一途之御詮儀をも被仰付筋こ相聞申候事

一子ノ年懸り合こ相成候節市右衛門方ゟ大庄屋元ゟ書状を以申出候由御座候へ共於子今こは左様之儀も不相分り夫已来ハ間欠道付之儀をハ一向申出をも不仕去年願書付差出候筋は苧楮不熟こて御受高地下取立六ケ敷候間減少被仰付於地下払弐百把之分をも御買上被仰付被下候様ことの願と相聞申候間欠取引道付之儀をこそ一番こ申出可仕儀と相見候処其儀ハ打捨置候由且又去ル辰ノ年間欠七匁五分宛地下〻〻立候分厚保こ不限脇村ゟも都ゟ渡方不埒と相聞尤脇村之儀ハ懸り合と申筋こてハ無御座厚保取引片付候ハヽ同様こ〻渡方可仕と申合置候儀と相聞申候事

一河原之者共儀も厚保ゟ之渡方不埒之趣追〻聞伝利屈之考無之者は孫四郎方ゟ渡方不仕候ハヽ地下ゟわり戻可仕筈抔と噂仕候者も有之候様相聞申候彼是市右衛門捌方不束之筋と相聞申候事

一御庄屋千〻松弥五郎存内四郎ケ原畔頭伊藤源蔵甚助両組御紙受御百姓中も此内出訴之申談仕候様相聞申候付内〻御代官所ゟ申達候処早速打廻り手子被差越頭立候御百生中ゟ何そ願筋有之候ハヽ物筋を以申出候様こ万一品を越候筋共有之候ゟは利悲之不〻〻差別厳重之咎を蒙り候処ハ眼前之儀なとハ入わり得と申聞せ候様こ申付置候由落着仕候故歟此内願書付を以申出候由此文言当暮ゟ御紙丸別五把宛之積りこ〻被渡下於御渡方之節御役人衆被差出見届被仰付被下候様且只今迄間欠銀も脇置こ〻被立下候様彼是有無之御沙汰を相待候之様成文躰と相聞申候於御庄屋元こ文躰旁存寄之儀も有之於間欠銀年〻河原村其外ゟ受取候分差引滞無之委細ハ帳面こゟ相分り候之儀何分心得候者弐三人罷越候ハヽ算用相旁得と入わり可申聞と申事こ付其趣畔頭ゟ御百姓ゟ申聞せ候得ハ申合早速可参と申事こ御座候得共今以

罷越不申候由依之書付をも未御庄屋元ニ留置有之候儀と相聞申候右願之趣善悪共ニ早速御詮儀不相成候ハゝ万一騒働仕間敷ものこても無御座候間御詮儀被差急何分隠便ニ相成候様御取計相成可然と御代官所ハ申達置候事

一厚保之者共騒働已後四郎ケ原畔頭伊藤源蔵組貞介と申者ゟ来嶋孫四郎方ハ苧楮丸別何程渡方相成候哉間欠銀之儀ハいか程こて候哉と聞合之手紙差越候処ニ密ニ之儀書中こて之返り難相成候付いつれは心得候者一人参り候ハゝ可申聞と致返答候処大工十兵衛と申者罷越様子承り帰候様風聞仕候尚其後於福村ゟ御勘場ハ御米代上納之分壱〆目余も持通り候を見請厚保ゟ出訴候て早速河原ゟ間欠差越候儀と存立申合当月七日八日比こても可有御座歟市はつれ之若宮八幡社ハ夜中多人数相集り出訴之申談仕候由入わり合点仕候ものハ諸用と申立不罷越部義御座候由此趣畔頭甚介承り早速罷越相宥候へ共聞入不申候付夫切こて罷帰候由其後追ニ申合心得候者存寄とも相加へ候故歟尚打廻り手子より申聞せを相用候故こて哉一応物筋を以願出候分別ニ相成候儀と相見前段之通書付差出候由相聞申候右之書付貞介相調候儀と相聞申候へ共手ふうを替いつれ調候とも不相分様書調候儀と相聞願筋御詮儀不相成時ハ兎角出訴可仕野心も可有御座哉と風聞仕候事

一右貞介と申者ハ御庄屋千ニ松弥五郎父右平次役中暫目代役相勤候処不捌有之退役申付其節ゟ少ニ意趣をも含居候様成風聞義有之大工十兵衛儀も四五ケ年已前弥五郎居宅普請之節他村之大工を雇ひ棟梁ニ仕候故其節細工こも不参夫已来心能不存ゆへ彼是打合せ兎角此者共より発端仕たる筋と風聞仕候事

一四郎ケ原之儀も拾ケ年余已前迄ハ河原村其外諸村ゟ現苧楮受来候処是又上中下之論も有之下直之時筋故於下ニ之買入差問も無御座受苧楮相止代銀請ニ仕たる筋ニ候へ共左様之儀且間欠受払旁地下人共ハ算用前得と不申聞故疑候之様ニ相成其上地下向次第ニ困究仕倒百姓も追ニ出来其部之御受紙をハ惣中被ニ相成彼是差問苧楮渡方之儀只様相歎候得ハ去ル辰年両組内ハ現苧楮廿把位も渡方相成夫已来一向渡苧楮無御座去ニ巳年山代苧楮不熟こて吉田御才判御紙上納被差止苧楮不残山代ハ御買上ケ被仰付其節ハ御紙請之者共ゟ丸別五把宛之当りを以買立相納候儀彼是こて前段之通相願且間欠之儀も厚保ニは年来懸り合仕候程之儀四郎ケ原之儀はいか様ニ相成居候哉旁御庄屋元を疑ひ存立たる儀も相聞申候得共必其筋とも相聞不申丸別五把宛之当りこて年来代銀受ニ仕間欠之儀ハ御庄屋元引受御紙上納之節木屋川口まて津出之駄賃其外諸雑用差引御過不足之儀ハ翌年之立用ニ仕来候儀と相聞各別不捌義有御座間敷現在駄賃等年ニ地下ゟ現〆ニ仕候筋こてハ無御座儀と相聞申候ケ様之算用相畔頭共ハ勿論地下人共ハ兼ゐ得と申聞せ候ハゝ疑を受候様成儀も出来仕間敷歟へ共御庄屋相捌不宜故之儀於地下こも是等之儀勘弁仕候者も有之其もの共ゟ不合点之者ハ申聞せ候ゐも不落着こて騒立候之様ニ相聞申候尤就中両組内ハ現苧楮弐拾把位も相渡候儀有之尚御百姓中ハ年来得と不申聞筋こおひてハ不審ケ間敷相見何そ御庄屋元不捌之筋可有御座段も難計何分地下ゟ願筋之趣彼是於御代官所御詮儀相成候ハゝ善悪共ニ相分り執義案心可仕と相見申候先只今之通こてハいつれも相治り各別騒働可仕下意は無御座御沙汰筋を相待居候様ニ相聞申候事

一杉原畔頭柳瀬半七組之御紙受御百姓中も都合同様之儀こて折〳〵申合たる儀も有之由相聞申候へ共御受紙纔之儀其上得と落著仕候故歟願筋相止候様相聞申候事

右聞繕之廉ニ前書之通相聞申候一躰時節柄悪敷当日之取渡こも差問候故色ニ之儀を安し出候ゐ之儀と相聞利悲を不弁者共之儀ニ付諸事御詮儀相成善悪共ニ得と申聞せ相成候ハゝ此余各別之儀は有御座間敷と相聞申候旁趣申上候以上

三月　　直横目　弥七

四　奥阿武宰判下小川村・生雲村百姓騒動

史料8

覚

一当春作出来立宜御座候ゟ御百姓中歳申候事
一此度之御仕法筋ニ付下之折相ゟ宜様ニ相聞申候事
一阿武郡宇生賀福田片股辺別ゟ困窮所之様ニ相聞申候事
一徳地柚木村之内ニゟ阿上中村辺別ゟ困窮所難儀者多御座候様ニ相聞申候事
一両御才判共ニ惣作所余分御座候様ニ相聞申候事
一困窮所ゟ御代官所ゟ御取救相成猶村〻ゟ相持之沙汰相成少〻宛差出難儀者取救候様ニ相聞出奔人ゟ多無御座麦出来立迄且〻取続候様ニゟ相聞申候得共難儀者之儀ハ蕨葛根を堀渡世ニ仕候付麦之条護（修カ）抔ゟ不得仕部ゟ余分御座候様ニ相聞申候事
一阿武郡下小川御庄屋野稲彦助存内畔頭能左衛門組御百姓八九十人計去極月廿三日之朝御庄屋元ゟ罷出御願之筋如何被仰付候哉能左衛門儀権威強御座候ゟ難儀仕候間今年ニ役替被仰付被下候様申候ニ付御庄屋元ゟ徒党を結候儀一大事之儀甚不相済由申聞何分追ゟ如何様共道付可相成候間罷帰候様ニ申聞候付同晩ゟ翌朝迄ニ追〻引取候由其後追〻呼出能左衛門ゟ已後権威ケ間敷儀無之様ニ申聞候間折相候様ニと取静候得共未折相不申候様ニ相聞申候事
一阿武郡生雲村之内宍（穴戸）美濃様御領（天子）あまごと申所庄屋寺山五郎兵衛存内百姓弐拾人計ゟ二月廿三日一同ニ罷出道法壱里計ゟ参候を生雲都合庄屋畔頭共ニ罷出連帰候様ニ相聞申候事
一同村畔頭六左衛門と申者米拾五六石銭七百目位ゟ引負仕番人付居讃談掛り之内二月廿日頃出奔仕候様ニ相聞申候事
右之通相聞申候ニ付趣申上候以上

三月　　直横目　弥伝次
　　利　介